

👉 K 👉 T S U K 👉

[akatsuka]



K



赤塚グループには

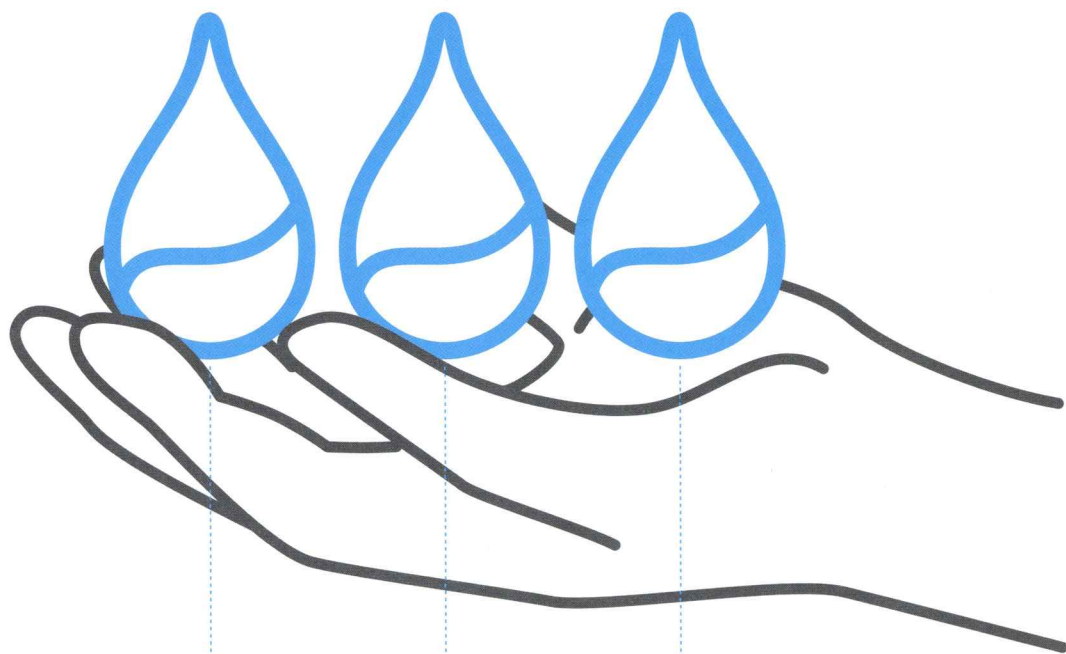
FFCテクノロジーに支えられた

3つのしずくがあります

緑の  
しずく

人の  
しずく

地の  
しずく



株式会社  
赤塚植物園

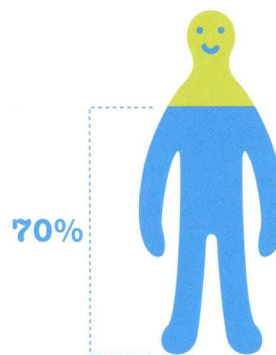
株式会社  
赤塚

株式会社  
エフエフシー・ジャパン

### 3つのしずくは 水の力で人と地球を HAPPY にしたい、と 考えています

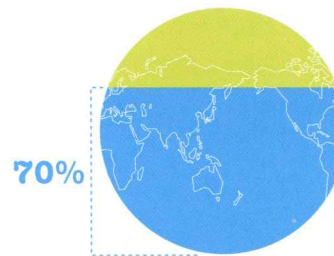
赤塚グループは「水」の力に着目している企業です。  
水のしずくが土を潤し、生命を育むように……。  
FFCテクノロジーにより生まれた水で  
人と地球を健全に、より幸せにすることをめざします。

### 人間のからだの約70%は 水分です



私たちのからだは約70%の「水」に占められています。その水に違いがあっても見た目にはわかりませんが、広い視野に立つと理解できます。水が変われば土壌が変わり、その土壌で育つ植物、その植物を食べる動物、さらにその動物を食べる人間が変わります。水の違いは大きな違いなのです。

### 地球表面の約70%も 水分です



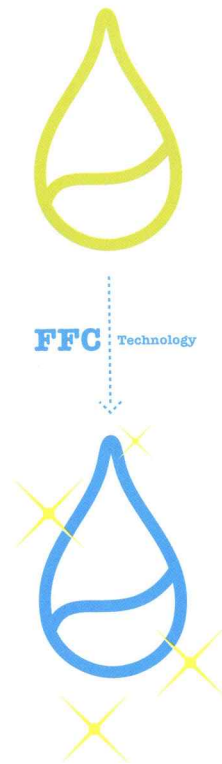
私たちが住む地球。その地球表面の約70%を占めているのが「水」です。その水の違いは土壌、植物、動物、人間を変えるだけでなく、環境と地球を変える力も持っています。すべての生命のサイクルは水でつながっています。だからこそ、水そのものを真剣に見直す必要があります。

ところで

## FFC テクノロジー

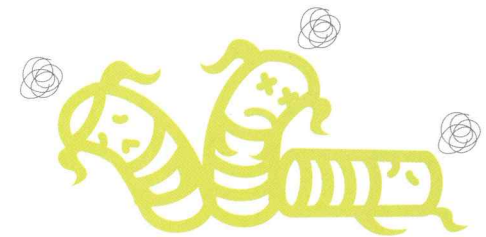
とは？

赤塚グループが水や植物、自然の仕組みに学び、開発した技術のことをいいます。その名の由来は特殊な鉄分（Ferrous Ferric Chloride）の頭文字にあります。FFCテクノロジーによる水は、太古の昔、生命が誕生したときの水に近い液体ともいわれ「還元作用」がある水として注目されています。



この技術の  
底力を確信する  
きっかけは  
幸福の木  
でした

赤塚グループの一つ、赤塚植物園では1982年、コスタリカから幸福の木の原木を輸入しましたが、2万キロにもおよぶ輸送で植物が弱ってしまいました。そこで当時研究中のFFCウォーターを同社の温室に撒き様子を見ると、3か月後には原木から芽が出てきました。FFCの力を社員一同が確信した光景でした。



長い船旅で弱り、  
腐りかけていた「幸福の木」に…



当時研究中だった  
FFCウォーターを与えると…



3か月後「幸福の木」は  
芽や根を吹き出しました  
HAPPY!

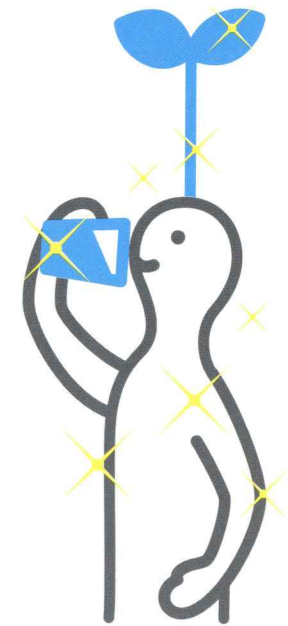
赤塚グループは  
FFCウォーター  
の実証データを取り  
さらに **研究** を  
重ねました

イチゴにFFCウォーターをかけて保存  
すると鮮度が一向に落ちないことや、3  
千坪の温室にFFCウォーターを撒くと  
爽やかな空気に一変することが判明。  
また創業者・赤塚充良の病弱な両親  
がFFCウォーターを飲んだところ、2人  
とも3か月ほどで体力回復。人にも善い  
影響を与えることが判ってきました。



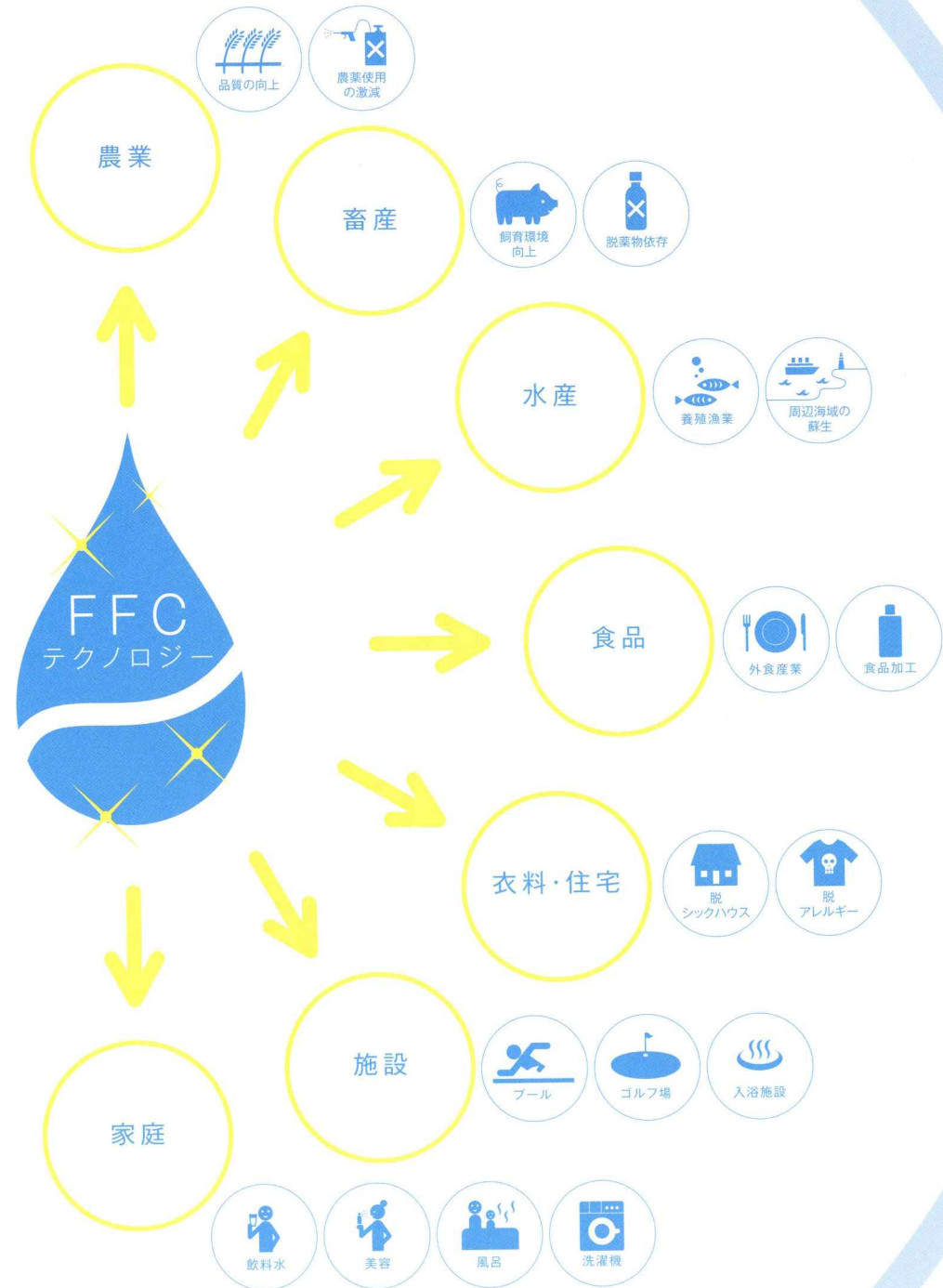
さらに  
**飲料水**  
として  
開発を  
進めました

健康づくりに役立つFFCウォーターを  
人々に広めようと開発を進めた結果、  
この水に4種類のお酢やビタミンなどを  
配合した飲料にすることに決定。これ  
を老人施設に半年間寄付し、お年寄り  
がイキイキと元気になる姿を目の当たり  
にして確信を得て商品化。こうして  
「FFCパイロゲン」が誕生しました。



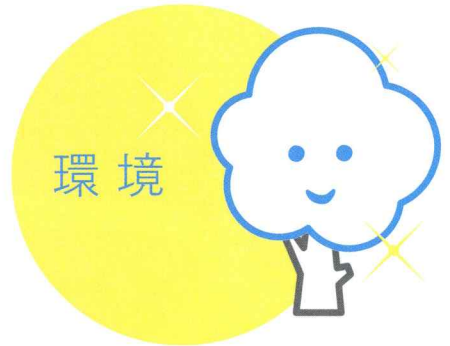
この水の効果に、さらに多くの人が気づき  
FFCの可能性がいききに広がっていきます →

FFCテクノロジーは  
さまざまな分野で実績を積み…





HAPPY ♪



HAPPY ♪



HAPPY ♪

健康・環境・経済の

3つをHAPPYに  
しようとしています

FFCテクノロジーによる水は、多岐にわたるフィールドでその効果を発揮しています。たとえば農業や水産業、外食産業や食品加工などの食品分野、衣料や住宅、施設、そしてもちろんご家庭でも。水という存在から健康を実感し、使いつづけることで環境浄化につながり、経済効果に善い影響を与えているのです。当社の技術から生まれた水が、「健康」「環境」「経済」に変化をもたらし、快適な毎日や未来を生み出していきたいと考えています。

HAPPY♪  
環境

HAPPY♪  
健康







## “一人の健康から地球の未来まで”

これが赤塚グループの大切にしている思い

FFC  
テクノロジーが  
HAPPYの  
善循環を  
広げていくと考えています

FFCテクノロジーによって安定して供給できる水となったFFCウォーターは、暮らしのなかで、農業や畜産、水産業において、レジャー施設やホテルなどで活用されています。毎日使う水をFFCウォーターに変えることで環境浄化をもたらし、人と地球の健康、経済にまで善い影響を与え、浸透させていく善循環が生まれていきます。

赤塚グループが  
HAPPYをめざす理由  
それは  
損得ではなく  
善悪で判断する  
ことが私たちの信念だからです

「一人の健康から地球の未来まで」。この言葉は当社が掲げるスローガンです。皆さまの健康づくりに役立ち、地球の健康も取り戻すこと。それは企業としての損得ではなく善悪で判断しなくては、到達できない目標です。善いことが連なり、より大きな円を描いていくように、当社の技術を徹底的に活用して欲しいと願っています。

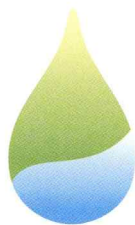
次のページで赤塚グループの  
3つのしずくを詳しくご紹介します →

赤塚グループの

3つのしずくには

それぞれ役割があります

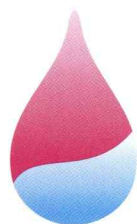
緑の  
しずく



植物のあふれる庭や街  
心がイキイキと輝くために

株式会社  
赤塚植物園

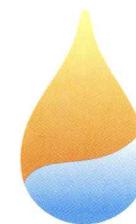
人の  
しずく



人から人へ気持ちをこめて  
元気と笑顔に出会うために

株式会社  
赤塚

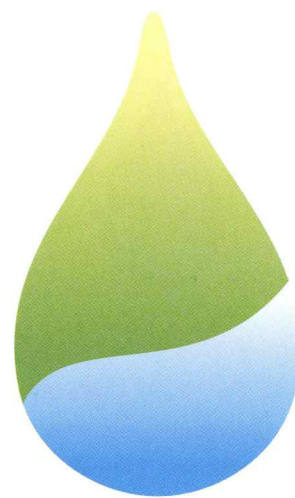
地の  
しずく



人と地球はいつも仲良く!  
環境をどんどん良くするために

株式会社  
エフエフシー・ジャパン

緑の  
しずく



株式会社

赤塚植物園

花と緑が人々のこころの健康をつくると  
いう考えのもと、皆さまに園芸の楽しさを  
伝え、ご提案。FFCテクノロジーによる  
「水」が、植物と人の素敵な関係をさら  
に心地よくしていきます。

## “植物と人の、こころ和む関わり”が出発点 四季を彩る花と緑をお届けします



赤塚グループの原点ともいべき企業、それが株式会社赤塚植物園です。創業者である赤塚充良がアメリカでの農業研修を終えて日本に帰国した1961年、アメリカの家庭でよく見たように「日本の庭を花でいっぱいになりたい」という思いから創業。その翌年には赤塚植物園の本拠地である三重県で10万本のサツキの挿し木を計画するなど、さまざまな取り組みを経て、三重県を「三重サツキ」の産地へと育て上げることに貢献しました。1967年には日本で初めて洋ランの生長点培養にも成功。近代的な農業経営や国土緑化という考え、また園



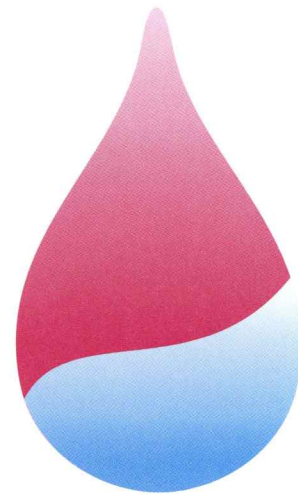
FFCパビリオン

芸という楽しみが浸透していなかった時代からずっとそれらの大切さを根気よく伝えながら、創業期から現在に至るまで日本の緑花産業のリーディングカンパニーとして努力を重ねています。このように良質な花と緑の生産から販売

までを手がける赤塚植物園が、「水」の大切さに着目し、時代に先がけて水の研究に取り組んだのは1980年代のこと。植物から出発している当社だからこそ、水の新技術であるFFCテクノロジーの開発へとつながり現在に至っています。当社の施設である「FFCパビリオン」や生産温室「FFCユートピアファーム」は、植物を愛する多くのお客さまが訪れ、ゆったりと憩う場所。FFCテクノロジーの活用によってイキイキと咲く花々や、FFCウォーターのミストに包まれた心地よい空間となっていて、FFCの善さを自然に感じていただけます。



人の  
しずく

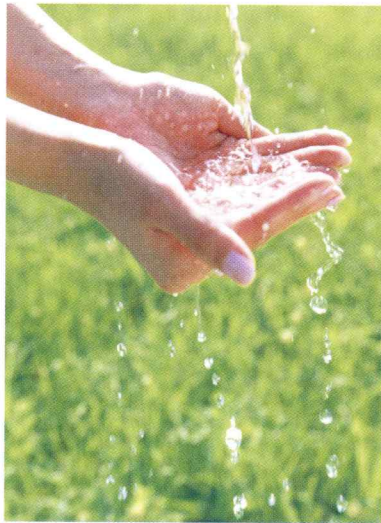


株式会社

赤塚

「水」の力でもっと健康に、さらに美しく  
なっていたくために、皆さまの毎日を応  
援。「FFCパイロゲン」をはじめとする、  
FFCテクノロジーから誕生した製品を、  
丁寧にじっくりと伝えています。

## 1985年以来、皆さまの健康のために FFCテクノロジーを活用した製品の数々を、誠実に提供しています



FFCテクノロジーの応用から生まれた清涼飲料水「FFCパイロゲン」。生命の水というべき「水」とともに、皆さまに真の健康づくりをしていただきたいという思いから、1985年に製造・販売を開始。以来、健康や美容を気づかう人々に愛されています。このFFCパイロゲンは一般の店頭に並べて販売するのではなく、愛飲者による組織「FFC普及会」による普及活動が主となっていて、株式会社赤塚は、その活動の運営を担っています。実際にFFCパイロゲンを健康維持に役立てている人が、身近な人たちにその善さを丁寧に伝えていくという方法が最善であると考えて、発



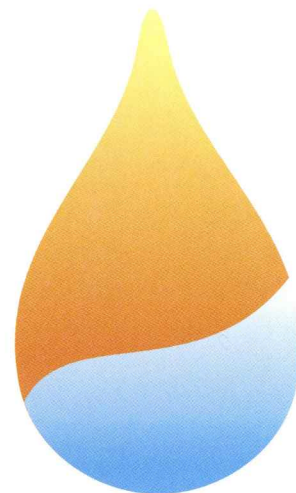
FFCパイロゲン

売以来、そのスタイルを貫いています。2007年には東京・銀座に「銀座サテライト」を開設。ここではFFCテクノロジーのこれまでの数々の実績をはじめ、FFCウォーターを用いたイチゴの鮮度保持試験やクギの錆びに関する実験などの実

例を詳しくご紹介しています。また、FFCパイロゲンをはじめ、ヘアケア製品「FFCスーパーシャンプー&トリートメント」、ご家庭内の水をすべてFFCウォーターに改質する「元始活水器」などの製品をご紹介する拠点としても活用しています。このような地道な取り組みをする当社において、安心して安全な製品をつくることは大前提です。FFCパイロゲンは世界的な食品品質審査会「モンドセレクション」(飲料水部門)に1999年から出品し、11年連続受賞。2007年～2009年には最高金賞を受賞し、安心して飲んでいただける健康飲料として信頼の証をいただいています。



地の  
しずく



株式会社

エフエフシー・ジャパン

人の生活と環境に深く関わる「水」。皆さまの暮らす街から地球の隅々までに着目して、心地よくなるようにお手伝い。FFCテクノロジーを応用し、多彩なシーンで環境改善と浄化を進めます。



## FFCテクノロジーであらゆる産業をサポート 地球環境の改善という大きな視野も見据えています



水——。それはあらゆる生物にとってそうであるように、人を取り巻く多くの産業においても必要不可欠な存在です。水がなければ農業や水産業はもちろん、製造業やサービス業も成り立ちません。株式会社エフエフシー・ジャパンは、こういった観点からFFCテクノロジーをさまざまな産業に応用し、環境の改善および、浄化をサポートしています。

当社の代表的な製品をご紹介しますと、まず1つ目は水そのものを改質させる「FFCセラミックス」。そしてもう1つが土壌のなかの水に働きかける「FFCエース」です。これらの製品を産業の内容に



FFC業務用製品ラインナップ

適した方法で導入することにより、さまざまな成果が多く実証されています。たとえば工場の排水が浄化されたり、製品の品質や生産効率が向上したり……。仕事に真摯に取り組み、少しでも安全で安心なものやサービスを提供したいと考

える人々の間で、その効果に対する驚きや喜びの声を多くいただいています。

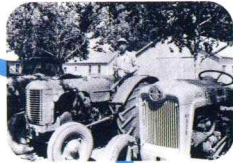
今後はFFCテクノロジーを用いた製品などのブランド化を推進し、よりいっそう広い分野への普及をめざしていきたいと考えています。具体的にはFFCテクノロジーの活用により生まれる高品質な製品や商品、施設など、赤塚グループが自信を持ってご紹介できる製品や施設にのみFFCテクノロジー認定マークの認定を許可するなどの活動です。人や環境にやさしいこと。環境改善につながり、地球の健康を取り戻すことに結びつくこと。それが当社の使命とつねに考えています。



黎明期:緑の時代 [1960年代~80年代前半]

園芸界のパイオニアとして日本のガーデニングを変えた時代です。

1956  
(昭和31年)



赤塚充良社長が渡米。  
3年間アメリカの  
農業を学ぶ。

1961  
(昭和36年)

赤塚植物園を創業。  
サツキ、ツツジ、貝塚イブキ等  
庭園用樹を導入。

1963  
(昭和38年)

「三重サツキ」の  
大量生産を行う。

1967  
(昭和42年)



洋ランの生長点培養に成功。  
研究室を建設して  
大量生産に入る。

1972  
(昭和47年)



株式会社赤塚植物園を設立。  
ブラジルに有限会社  
ブラジル赤塚植物園を設立。

1973  
(昭和48年)

当時では先進的な  
郊外型園芸売店を開店。

1974  
(昭和49年)



株式会社ハワイ赤塚植物園  
を設立。

1983  
(昭和58年)



第22回農林水産祭  
園芸部門で  
天皇杯を受賞。

1984  
(昭和59年)

株式会社赤塚の  
前身である  
赤塚物産株式会  
社を設立。

1985  
(昭和60年)

水の働きに着目し、  
研究を開始。  
FFCテクノロジーを開発。  
FFCパイロゲンの  
製造・販売開始。

1991  
(平成3年)



赤塚充良社長が  
黄綬褒章を受章。

1995  
(平成7年)

株式会社  
エフエフシー・ジャパン  
を設立。

1994  
(平成6年)



生物機能開発研究所  
が完成。

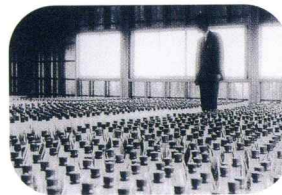
普及期:緑と人の時

FFCによる健康維持と環境改善の身

TOPICS

1967 洋ランの生長点培養に成功

赤塚植物園が洋ランの生長点培養に成功したのは1967年。それまで洋ランは一部の富裕層の人々が手に入れることができるぐらいで、大衆にとってはまさに「高嶺の花」でしたが、この技術によりいっしょに普及。赤塚植物園では研究室を建設して洋ランの大量生産に入り、多くの人が洋ランの美しさを楽しむことが可能になりました。また1980年には天覧の栄誉に浴し、洋ランの生長点培養の実演を行い、昭和天皇にねぎらいのお言葉をいただきました。



2005 愛・地球博「バイオラング」に参加

「自然の叡智」をテーマに2005年に開催された愛知万博「愛・地球博」。そのメイン会場で多くの人々が憩いの時を楽しんだ長さ150mに渡る世界最大級の巨大緑花壁「バイオラング」をご記憶の方も多いことと思います。赤塚グループはこの事業のオフィシャルパートナーとしてFFCウォーターを提供。霧状のFFCバイオミストで会場を包み、訪れた人々に心地よさと緑花壁の植物の生育ぶりの善さを知っていただくと同時に、世界に向けてFFCテクノロジーという環境改善の新技术を発信しました。





アカツカコーポレートマーク 1991年(平成3年)制定

蘭の花をデザイン化。花と緑、そして、からだところの健康のバランスを左右対称で示すとともに、無限大の広がり調和を強調。さらに中央の円は平和を、外円は地球を表現しています。

1980年代後半～90年代]

事例を積み重ねた時代です。



1996  
(平成8年)  
アカツカ  
FFCパビリオン  
が完成。



FFCパイロゲン関工場が完成。



FFCホールが完成。

1999  
(平成11年)



FFCユートピアファームが完成。



FFCテクノロジー  
実践技術発表会  
「FFCワールド2001」を開催。

2001  
(平成13年)

## 発展期:緑と人と地の時代 [2000年代～]

FFCテクノロジーの素晴らしさを世界に発信している時代です。

愛知万博のバイオラングに  
オフィシャルパートナーとして参加。  
「FFC国際フォーラム2005」を開催。

2005  
(平成17年)



赤塚グループ新社屋が完成。

2002  
(平成14年)



株式会社  
アカツカナーセリー  
タイランドを設立。

「アンチエイジング  
国際シンポジウム&エキスポ東京2006」  
に公式協賛し  
第一回東京国際アンチエイジング大賞  
グランプリを受賞。

2006  
(平成18年)

「FFC国際フォーラム  
2009」を8月に開催。

2009  
(平成21年)

モンドセレクションで  
FFCパイロゲン・  
FFCパイロゲンゴールドが  
最高金賞受賞。

2007  
(平成19年)



赤塚グループ東京支店  
銀座サテライトを開設。

2008  
(平成20年)

FFCノンカロリー  
パイロゲンが  
モンドセレクション初出品で  
最高金賞受賞。

### 2005 FFC国際フォーラム2005を開催

FFCテクノロジーの輪が世界中に広がることを願って2005年に「FFC国際フォーラム2005」を開催。米国ハーバード大学をはじめ国内外の学術・研究機関の著名な研究者14名がFFCに関する研究成果の発表を行うなど、これまで赤塚グループが蓄積してきた実証事例に理論的解明と評価が加わり、FFCが世界に向けて踏み出す確実な第一歩となりました。今後も国際規模のFFCフォーラムを開催していく予定です。



### 2007 2008 2009 モンドセレクションにて3年連続最高金賞を受賞

赤塚グループではFFCパイロゲンを「モンドセレクション(飲料水部門)」に1999年から出品し11年間連続受賞。近年は最高金賞も受賞しています。モンドセレクションは食品のノーベル賞ともいわれるもので、ベルギー王国の経財省認定の世界的な食品・酒類の審査会で、大変厳しい品質審査が行われることで知られています。  
[FFCパイロゲン]最高金賞受賞(2007年、2008年、2009年)  
[FFCパイロゲンゴールド]最高金賞受賞(2007年)  
[FFCノンカロリーパイロゲン]初出品で最高金賞受賞(2008年)



【施設ライブラリー】

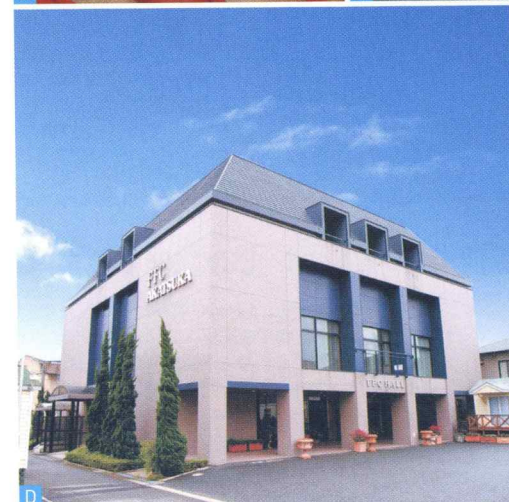
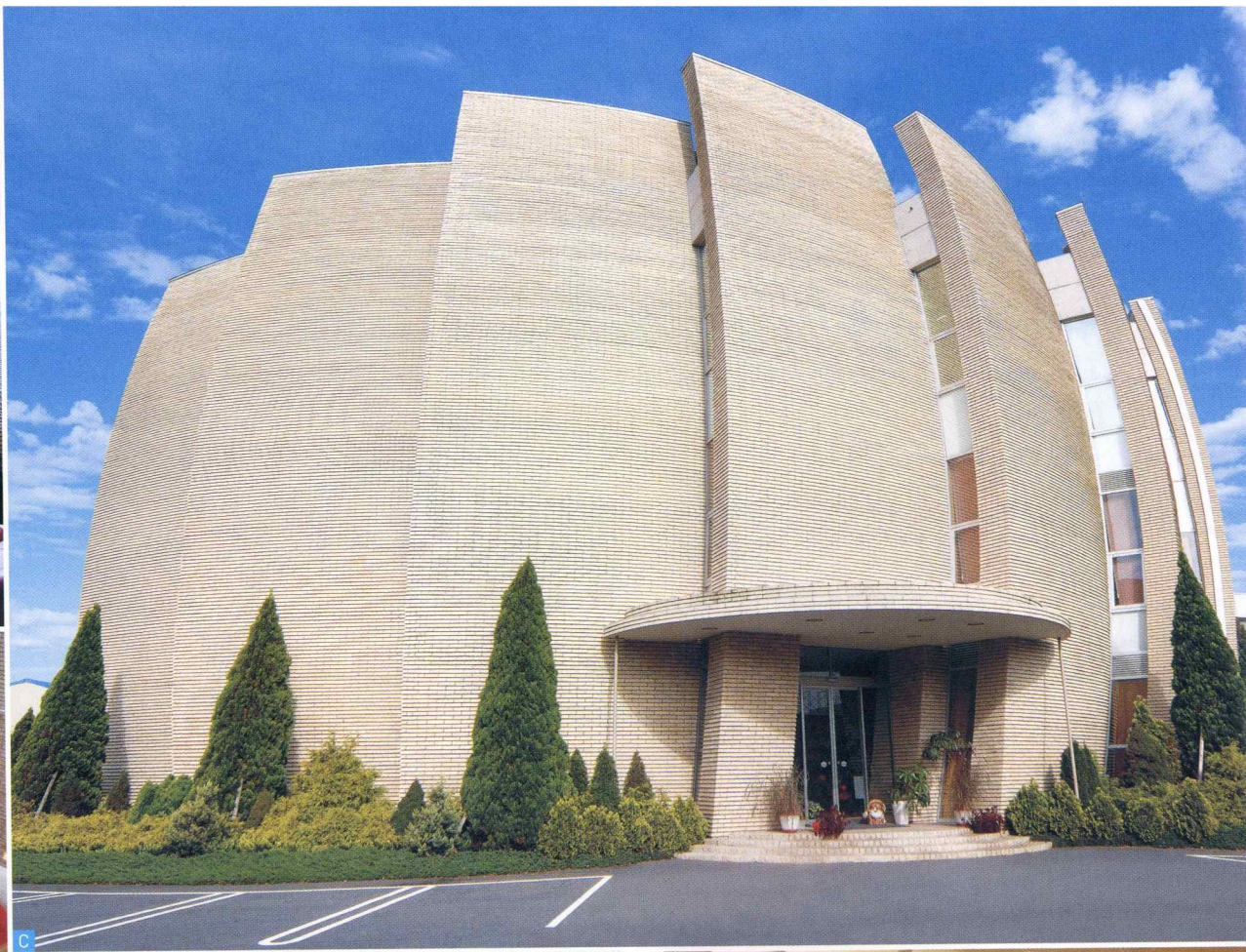
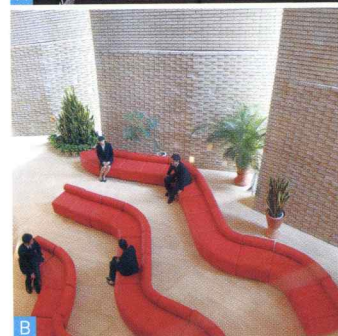
## 本社・サテライト

穏やかな曲線美が印象的な赤塚グループ本社の社屋は、地球と花が開くイメージでデザインされた建物です。本社隣にあるFFCホールはFFC普及会会員の研修会などに使用しています。日本の中心地・東京で、FFCの実証事例などを気軽に見て感じていただけるショールームとして開設したのが東京支店銀座サテライト。昭和通り沿いのビルにある癒しの空間です。これらの施設を情報拠点として、FFCテクノロジーと赤塚グループの取り組みを発信しています。

A～C：赤塚グループ本社

D：FFCホール

E・F：東京支店銀座サテライト



[施設ライブラリー]

## 園芸農場・ショップ

FFCパビリオンは日本における郊外型大型園芸売店の草分け的存在。各種植物の販売はもちろん、園芸教室も開催しています。FFCユートピアファームは高齢者の生きがいに繋がる場として開かれた生産温室。その最奥部には希少生物大温室があります。ほかにもFFCの実験を兼ねた生産農場である安濃農場や、街路樹用として開発したシャクナゲを植えたシャクナゲロードなど、園芸界のリーディングカンパニーならではの施設と風景に満ち溢れています。

G・H: 希少生物大温室  
I~K: FFCユートピアファーム  
L~N: FFCパビリオン(売店)  
O・P: 安濃農場  
Q : シャクナゲロード





R



S

T



U



V



W

【施設ライブラリー】

## 研究施設・工場

生物機能開発研究所では組織培養による園芸植物の大量生産の研究をはじめ、FFCテクノロジーの基礎研究やFFC製品の科学的検証などを行っています。ビオトープによる生態系をテーマにした研究では、ホタルが生息するまでに水辺環境が改善したという事例もあります。健康飲料「FFCパイロゲン」の製造を担うのがFFCパイロゲン関工場。全工程をオートメーションで制御しています。国際規格であるISO9001、ISO14001の認証も取得しています。



X



Y



Z

R : ホタルのせせらぎ(ビオトープ)  
S~X : 生物機能開発研究所  
Y・Z : FFCパイロゲン関工場

「一人の健康から地球の未来まで」  
この強い思いを胸に  
FFCのさらなる普及をめざします

水と緑あふれる地球に住む私たちは、大自然の恩恵を受けながら、脈々と生命をつなげてきました。しかしながら近年、その自然が急速に姿を変えています。私たちは科学技術の発達によって便利な生活を手に入れた一方で、地球環境への驚くべき負荷を積み重ね、そして生命の源ともいえる「水」の安全さえ失いつつあります。

私は1961年に赤塚植物園を創業以来、こころ豊かな暮らしのご提案をするため日本全国に向けて、花と緑の普及に情熱を注いでまいりました。長年植物と深く関わるなかで「水」に着目し研究を進めるうちに出会ったのが、生命を育む機能を持つ新技術「FFCテクノロジー」です。以来、20年以上にわたって赤塚グループがFFCの普及に全力を注いできたのは、企業として損か得かではなく、それが世の中にとって本当の意味で豊かな時代づくりの

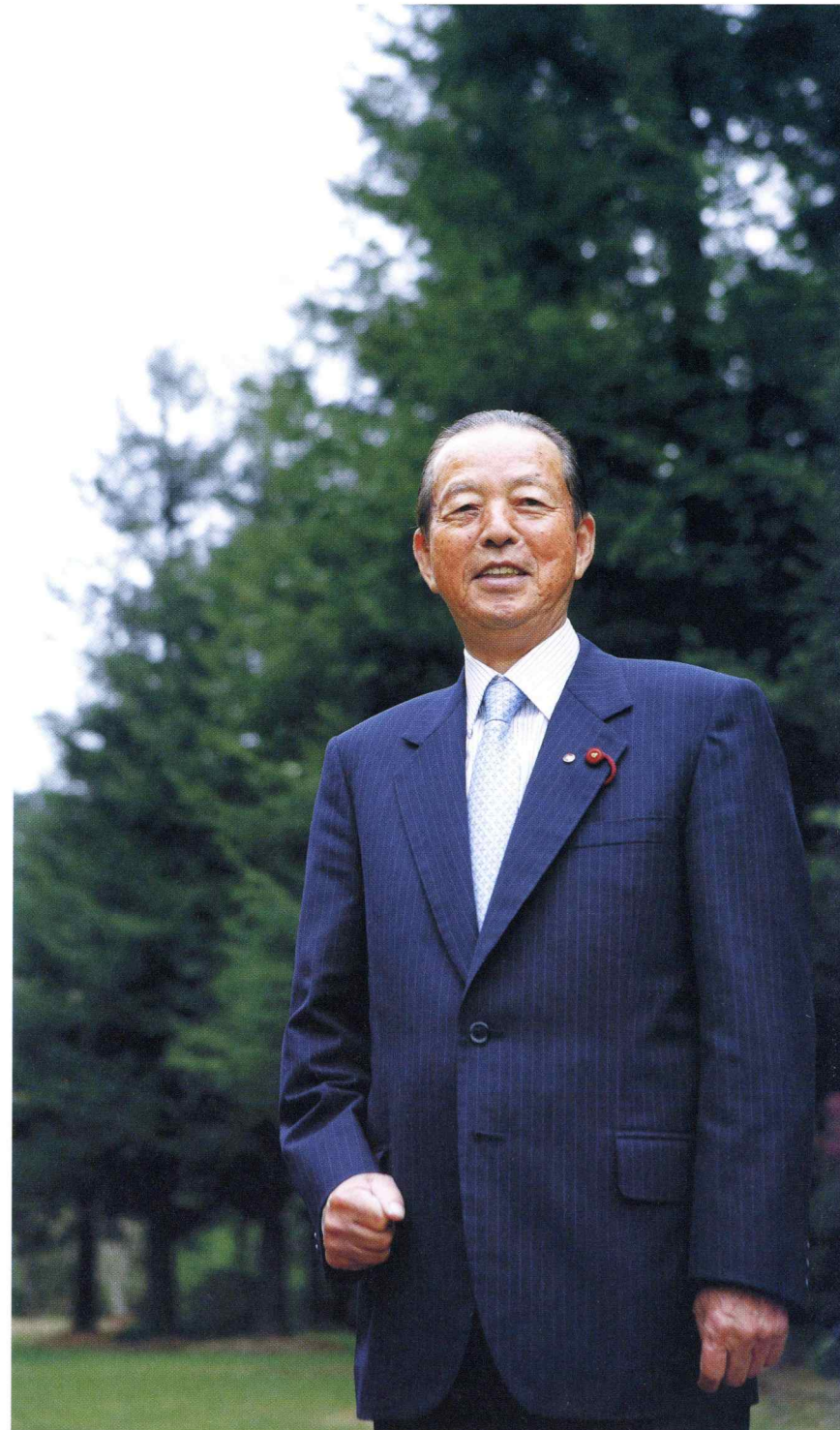
ためになるかどうか、ゆるぎない信念だからです。1985年、「FFCパイロゲン」の発売を皮切りに、FFCテクノロジーは多くのご家庭で毎日の健康的な生活に大いに役立てられるようになり、あらゆる産業でも導入が進み、農畜産、水産、食品産業、衣服、建築、施設運営などで、FFCの力が発揮されています。さらに全国から寄せられる実績によりFFCは周りの自然環境にまで善い影響を与える、ということが判明しました。FFCを活用することで環境まで改善し、健康・環境・経済の善循環を可能にする新技術として広く認知されるようになりました。このようなFFCを一日でも早く一人でも多くの方に知っていただくことが美しい地球を取り戻す道であると私は信じています。「一人の健康から地球の未来まで」という思いを持ち、今後もより一層FFCの普及に努めてまいります。

代表取締役社長

赤塚 充良

AKATSUKA MITSUO

1933年生まれ、三重県出身。1980年ブラジル・サンパウロ州オザスコ市の名誉市民権を与えられる。1983年農林水産祭・園芸部門で天皇杯を受賞。さらに、1991年には園芸業界の発展に尽力してきた長年の功績が認められ黄綬褒章を受章。2003年国土交通省より地域活性化貢献賞を受賞。社会貢献を最大の経営理念として掲げ、環境のあり方を地球規模で考え、FFCテクノロジーの活用を提唱しつづけている。



AKATSUKA

[akatsuka]

## 赤塚グループ

[www.akatsuka.co.jp](http://www.akatsuka.co.jp)

### 株式会社 赤塚植物園

〒514-2293 三重県津市高野尾町1868番地の3  
TEL.059-230-1234(代表) FAX.059-230-0576

### 株式会社 赤塚

〒514-2293 三重県津市高野尾町1863番地の1  
TEL.059-230-1310(代表) FAX.059-230-1219

### 株式会社 エフエフシー・ジャパン

〒514-2293 三重県津市高野尾町1868番地の3  
TEL.059-230-3595(代表) FAX.059-230-3380

#### 【東京支店 銀座サテライト】

〒104-0061 東京都中央区銀座4丁目8番4号 三原ビル7階  
TEL.03-5524-8011 FAX.03-5524-8012

#### 【福岡サテライト】

〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東3丁目1番26号  
博多駅イーストプレイス607号室  
TEL.092-474-5115 FAX.092-474-5117